

「ばんえい競馬開催による地域への経済波及効果」について

1 調査概要

- ・対象年度 令和2年度（前回 平成27年度）
- ・調査分析 国立大学法人 帯広畜産大学（現 北海道国立大学機構 帯広畜産大学）
- ・波及効果の推計項目
 - （1）ばんえい競馬開催に係る運営支出（運営支出）
 - （2）十勝のばん系馬生産に係る支出（生産支出）
 - （3）ばんえい競馬來場者による消費支出（消費支出）
- ※いずれも十勝管内の企業に支払われた額のみ推計
- ・推計方法

前回の調査は、帯広畜産大学と帯広信用金庫との共同研究で作成した十勝産業連関表を用いていたが、古く無理があることから北海道開発局公表の経済波及効果分析ツールを使用し、この推計方法となる。

2 調査結果

		平成27年度	令和2年度	増減
発売額		145億7931万5600円	483億5278万7900円	337億7347万2300円増
本場発売額		14億8113万4100円	9億325万9400円	5億7787万4700円減
ネット発売		96億7149万9600円	444億5402万7600円	347億8252万8000円増
本場入場者数		282,932人	161,944人	120,988人減
最終需要	運営支出	9億9583万1000円	20億9405万6000円	10億9822万5000円増
	生産支出	5億1652万7000円	4億7481万5000円	4,171万2000円減
	消費支出	24億826万1000円	27億2025万1000円	3億1199万円増
合計		39億2061万9000円	52億8912万2000円	13億6850万3000円増
経済波及効果		62億6873万7000円	61億7039万円	9834万7000円減

3 分析結果

運営支出は約2倍増加しているが、そのほとんどが十勝では自給率の低い部門に振り分けられる。

生産支出では、1頭当たりの飼養費は変わらないが、飼養頭数減少により総額も減少している。

消費支出は、来場者数が約2分の1となっているが、一人当たり消費支出は約2倍となり、結果的に総額が増えている。コロナ禍で遠方への旅行ができず、近場でも高価な旅行を楽しむという傾向があらわれていると考えられる。

売上を伸ばしていることで最終需要額合計値も増えているが、経済波及効果は前回と同様の水準である。要因として第1に馬券の売り上げの90%以上がインターネット投票であり、かつ、前述した通り売り上げの多くは直接的に十勝経済に影響を及ぼす構造になっていない。第2に、今回の推計では北海道開発局公表の分析ツールを使用している。第3に、前回の推計では消費効果を含めて波及効果を推計したが、一般的に総合的経済波及効果の把握には消費効果を含めないため、今回は計上しなかったことが上げられる。

ばん馬と観光との結びつきが地域経済にもたらす波及効果は大きい、帯広競馬場への来場者を増やすことが課題と考える。

注) 産業連関分析に用いた基本表が異なるため、平成27年推計と単純に比較できない。